

# 植物回避「高江で無理」

## オスプレイ火災 住民不安

在沖米海兵隊が来秋にも配備するMV22オスプレイの排気による火災リスクについて、防衛省が20日、直下の植物群落を回避して飛行することなどで「火災発生リスクの低減を米軍に求める」との考えを示した

ことに對し、北部訓練場に近しい東村高江の住民から「信用できない」と不満が漏れた。(2面参照)

ヘリパッドにいない住民の会の安次嶺現達さん(53)

「は「やんぼるは森林地帯がほとんど。熱い排気が貴重な動植物の生態系に与える影響も計り知れない。ホバリングの風圧で通学する子どもに何か飛んでこないか心配だ。到底信用できない」と批判する。

県平和委員会の大久保康裕事務局長は「あくまで安全な運航を想定した米軍と防衛省の一方的な情報提供で、信頼に欠ける。航空専門の科学者による検証が必

要だ」と指摘した。「(広大な訓練場がある)米本土とは前提が違う。高江での運用はもつてのほかだ」と県内への配備をけん制した。